

申請案件およびバリデーション審査結果等の概要

気候変動対策認証センター
バリデーションチーム

今回のオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会において審議対象となっている申請案件、認証センターにより行った審査結果ならびに当プロジェクトに対するパブリックコメントの概要は以下の通りである。

1. 修正登録案件 滝上町ホテル溪谷木質バイオマス活用プロジェクト

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	滝上町ホテル溪谷木質バイオマス活用プロジェクト						
申請受理日	2009年10月6日						
プロジェクト代表事業者	森林バイオマス吸収量活用推進協議会						
プロジェクト事業者	株式会社たきのうえドリーム						
その他プロジェクト参加者	滝上町 濁川製材株式会社 滝上町林業協同組合						
オフセット・クレジット（J-VER）取得予定者	森林バイオマス吸収量活用推進協議会						
プロジェクト概要	<p>町内の公共施設である「たきのうえホテル溪谷」に木質チップを燃料とするチップボイラーを平成21年2月17日から導入した。その結果として化石燃料から脱却したエネルギー利用を推進し、二酸化炭素排出量を低減させることで地球温暖化防止に寄与することを目的とする。</p> <p>また、現在林業が直面している問題として木材販売による収益よりも保育や間伐などの事業費の方が高額になるということがあり、林内の土場に林地残材（枝条等も含む）が放置されているケースが多くなっている。これらの林地残材をエネルギー源として有効利用してクレジット化することで、地球温暖化防止に寄与する以外に、間伐や植栽などの森林整備の促進や林業・林産業の活性化につなげることも目的としている。</p>						
プロジェクト期間	2009年2月17日～2024年2月16日						
クレジット期間	2009年2月17日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	32	287	287	287	287	1,180
ポジティブリスト	No. E. 001						
方法論	JEAM 001（化石燃料から未利用の木質バイオマスへのボイラー燃料						

代替)

(2) 審査結果 (修正分)

審査内容	バリデーションチームの審査結果
修正箇所	<p>プロジェクトボイラー効率 η_{pj} を、温度と流量を計測することにより算定するよう計画されていたが、第 7 回（平成 21 年度第 4 回）オフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による方法論 JEAM001 の改訂を受け、当該プロジェクトボイラーの定格出力が 1000kw 以下のボイラーであることから、メーカーによるカタログ値を適用する旨の修正が行われた。同修正内容をオフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
認証運営委員会への推奨	<p>平成 21 年 11 月 10 日に開催されたオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会において登録が承認された際の本プロジェクトは、モニタリングプランにおいてプロジェクトで使用するボイラー効率 η_{pj} に関し、還温度、往温度、水の流量の実測に基づいた算定という計画となっていたが、同委員会の「ポジティブリスト・方法論に関する方法論パネルにおける審議結果に関する報告・審議」により方法論 JEAM001 の一部修正が承認された。当該承認事項のひとつとして、「プロジェクトで使用するボイラー効率 η_{pj} の算定は、定格出力が 1000kW 以下のボイラーについては、メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値の使用を認める」ものである。</p> <p>これを受け、本プロジェクトでは還温度、往温度、水の循環量のモニタリングについて、今後検定付計量器の設置が行われるとされていたことは必須事項ではなくなったため、申請者より申請書の修正が行われた。同申請書においても本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による修正登録を行うことを推奨する。</p>

2. 申請案件 鳥取県県有林 J-VER プロジェクト

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	鳥取県県有林 J-VER プロジェクト						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	鳥取県						
プロジェクト事業者	鳥取県						
その他プロジェクト参加者	なし						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	鳥取県						
プロジェクト概要	鳥取県板井原県有林を持続的に管理するため、間伐が必要な人工林を適期に間伐し、健全な林況を維持するとともに、光合成による二酸化炭素の吸収を促進する。間伐した森林の二酸化炭素吸収量について、オフセット・クレジット (J-VER) を取得、販売し、その追加的資金を活用し、今後の間伐、間伐材の搬出、作業道の整備などを更に進め、持続可能な森林経営を継続する。						
プロジェクト期間	2007年4月1日～2013年3月31日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO ₂	256	407	506	764	851	2,784
ポジティブリスト	No. R 001						
方法論	JRAM001－森林経営活動によるCO ₂ 吸収量の増大 (間伐促進型プロジェクト)						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件 (C)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JRAM001 の適用は実施規則及びポジティブリストNo.R001 に準拠しており、適格性要件を満たしていることを確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。

排出量・吸収量算定 (Ⅰ・Ⅱ)	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論JRAM001及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。なお、現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
モニタリング計画 (Ⅲ～Ⅵ)	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
その他の論点	現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況、環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施状況を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
認証運営委員会への推奨	オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. R001 の適格性基準を満たし、方法論 JRAM001 に照らした算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、方法論に則って作成されており、ルールへの準拠性が確認された。 現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。	

3. 申請案件 東河内株山共有林森林管理プロジェクト

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	東河内株山共有林森林管理プロジェクト						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	兵庫県森林組合連合会						
プロジェクト事業者	しそ森林組合						
その他プロジェクト参加者	なし						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	兵庫県森林組合連合会						
プロジェクト概要	対象地である東河内株山共有林は、SGEC認証取得や針葉樹林、広葉樹林の混交林整備による災害に強い森づくりなど先進的に地球温暖化を防止する循環型の山林経営を実施していますが、このような取り組みをしても、このエリアで産出される木材が特別に高付加価値化されるわけではなく、木材価格の低迷など、循環型の林業経営にコストをかけても、経営における採算性が改善されているわけではありません。そこで、森林整備を進め、CO2吸収量を増加させ、その増加したCO2吸収量を金銭価値化することにより、今後の森林整備や木材搬出など林業経営にかかる費用の一部にあてることで森林経営を継続させることを目的としています。						
プロジェクト期間	2007年4月1日～2012年3月31日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	101	146	142	137	135	661
ポジティブリスト	No. R. 001						
方法論	JRAM 001森林経営活動によるCO2吸収量の増大（間伐促進型プロジェクト）に関する方法論						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件（C）	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JRAM001 の適用は実施規則及びポジティブリストNo.R001 に準拠しており、適格性要件を満たしていることを

	確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
排出量・吸収量算定（Ⅰ・Ⅱ）	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
モニタリング計画（Ⅲ～Ⅵ）	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
その他の論点	現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況、環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施状況を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
認証運営委員会への推奨	<p>オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. R001 の適格性基準を満たし、方法論 JRAM001 に照らした算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、方法論に則って作成されており、ルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。	

4. 申請案件 森の町内会（間伐サポーター企業群と岩手県岩泉町・葛巻町の連携による間伐促進プロジェクト）

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	森の町内会（間伐サポーター企業群と岩手県岩泉町・葛巻町の連携による間伐促進プロジェクト）						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	環境NPOオフィス町内会						
プロジェクト事業者	岩泉町 葛巻町森林組合						
その他プロジェクト参加者	葛巻町 岩泉町森林組合						
オフセット・クレジット（J-VER）取得予定者	環境NPOオフィス町内会						
プロジェクト概要	「森の町内会」は「間伐に寄与した紙」の使用を通じて「複数企業の環境貢献活動」と「地域における森林整備」を結びつける新しい仕組みである。企業が従来の紙代より10%程度割高となる「間伐に寄与した紙」を購入・使用することで、間伐費用の不足分の一部を負担し、間伐を促進する。本プロジェクトは、「森の町内会」活動を通じて、間伐サポーター企業群との連携により、更なる森林整備を進め「森を元気にする」とともに、温室効果ガスの吸収量の増大を図ることを目的としている。						
プロジェクト期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	160	353	421	515	516	1,967
ポジティブリスト	No. R. 001						
方法論	JRAM 001（森林経営活動によるCO2吸収量増大（間伐促進型プロジェクト）に関する方法論）						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報（A・B）	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件（C）	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JRAM001 の適用は実施規則及びポジティブリストNo.R001 に準拠しており、適格性要件を満たしていることを確

	認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
排出量・吸収量算定（Ⅰ・Ⅱ）	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。なお、現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
モニタリング計画（Ⅲ～Ⅵ）	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
その他の論点	現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況、環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施状況を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
認証運営委員会への推奨	<p>オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. R001 の適格性基準を満たし、方法論 JRAM001 に照らした算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、方法論に則って作成されており、ルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。	

5. 申請案件 諸塚村森林炭素吸収量活用プロジェクト

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	諸塚村森林炭素吸収量活用プロジェクト						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	宮崎県 諸塚村						
プロジェクト事業者	耳川広域森林組合 (財) ウッドピア諸塚						
その他プロジェクト参加者	なし						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	宮崎県 諸塚村						
プロジェクト概要	<p>本事業は、J-VER制度の準拠した森林管理の推進によりCO₂吸収を促進し、低炭素社会を実現する一助となることとあわせて、適正な間伐を推進することにより、地域に根ざした森林管理者の雇用の創出につなげる。また、国土の保全、水源涵養など森林本来の機能を維持できるような森づくりを実現するとともに、豊かな森とその資源を活用した都市との交流による地域の活性化など多面的な効果を発揮させるきっかけとする。</p> <p>また、今回のプロジェクトは、諸塚村有林、(財)ウッドピア諸塚所有林、耳川広域森林組合所有の適正な管理を目的としているほか、FSC森林認証対象林分であることから、諸塚村内関係者で構成されている、諸塚村森林認証研究会、森林炭素吸収量活用委員会の中で協議検討し、事業の計画、申請を行うものである。</p>						
プロジェクト期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO ₂	196	467	822	909	1,005	3,399
ポジティブリスト	No. R. 001						
方法論	JRAM 001 (森林経営活動によるCO ₂ 吸収量の増大 (間伐促進型プロジェクト) に関する方法論)						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件 (C)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行

	<p>った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JRAM001 の適用は実施規則及びポジティブリストNo.R001 に準拠しており、適格性要件を満たしていることを確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
排出量・吸収量算定（Ⅰ・Ⅱ）	<p>モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。なお、現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
モニタリング計画（Ⅲ～Ⅵ）	<p>モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
その他の論点	<p>現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況、環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施状況を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
認証運営委員会への推奨	<p>オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. R001 の適格性基準を満たし、方法論 JRAM001 に照らした算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、方法論に則って作成されており、ルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
	意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。

6. 申請案件 熊本県小国町間伐推進プロジェクト

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	熊本県小国町間伐推進プロジェクト						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	熊本県小国町						
プロジェクト事業者	熊本県小国町						
その他プロジェクト参加者	小国町森林組合						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	熊本県小国町						
プロジェクト概要	本プロジェクトを実施することにより、これまで実現できなかった低齢級林の搬出間伐を推進させることを最大の主眼に置いている。これまで低齢級林は材価との兼ね合いで採算性に乏しく、できても切り捨て間伐が主流になっていたが、適正時期に適切な搬出間伐を進めることで林業の持続可能性を維持、強化していきたい。その他プロジェクト参加者の小国町森林組合は、モニタリング調査及びモニタリング報告書の作成等で本プロジェクトに参加している。						
プロジェクト期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	1 4 1	2 9 1	583	698	808	2, 521
ポジティブリスト	No. R. 001						
方法論	JRAM 001 (森林経営活動によるCO2吸収量の増大 (間伐促進型プロジェクト) に関する方法論)						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件 (C)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JRAM001 の適用は実施規則及

	びポジティブリストNo.R001 に準拠しており、適格性要件を満たしていることを確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
排出量・吸収量算定（Ⅰ・Ⅱ）	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。なお、現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
モニタリング計画（Ⅲ～Ⅵ）	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
その他の論点	現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況、環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施状況を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
認証運営委員会への推奨	<p>オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. R001 の適格性基準を満たし、方法論 JRAM001 に照らした算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、方法論に則って作成されており、ルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
------	-----

意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。

7. 申請案件 紋別市有林間伐促進型森づくり事業

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	紋別市有林間伐促進型森づくり事業						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	紋別市						
プロジェクト事業者	紋別市						
その他プロジェクト参加者	オホーツク中央森林組合 株式会社 エコノス						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	紋別市						
プロジェクト概要	本プロジェクトは紋別市市有林において実施される間伐によって、健全な森林育成を図るとともに、市有林でのCO2吸収の量を維持していくことが目的である。 また、森林吸収量をクレジット (J-VER) として売買し、得られた資金を森林の管理費用とすることで森林を維持、管理していくという目的もある。						
プロジェクト期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	1,115	1,076	1,118	1,153	1,167	5,629
ポジティブリスト	No. R. 001						
方法論	JRAM 001 (森林経営活動によるCO2吸収量の増大 (間伐促進型プロジェクト) に関する方法論)						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件 (C)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行

	<p>った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JRAM001 の適用は実施規則及びポジティブリストNo.R001 に準拠しており、適格性要件を満たしていることを確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
排出量・吸収量算定（Ⅰ・Ⅱ）	<p>モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。なお、現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
モニタリング計画（Ⅲ～Ⅵ）	<p>モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 JRAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
その他の論点	<p>現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況、環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施状況を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
認証運営委員会への推奨	<p>オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. R001 の適格性基準を満たし、方法論 JRAM001 に照らした算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、方法論に則って作成されており、ルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
------	-----

意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。

8. 申請案件 長野県木質ペレットストーブの使用による J-VER プロジェクト

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	長野県木質ペレットストーブの使用によるJ-VERプロジェクト						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所						
プロジェクト事業者	長野県産木質ペレットを利用する家庭・団体・事業者等						
その他プロジェクト参加者	長野県 上伊那森林組合						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所						
プロジェクト概要	長野県産の木質ペレットをストーブ燃料として利用し、化石燃料を代替することにより二酸化炭素の排出削減を図り、それにより創出されるクレジットへの企業からの資金提供を、木質ペレットの利用者に還元する仕組みを構築し、未利用の間伐材等の森林資源の有効活用と地球温暖化防止策に資する森林整備を推進するとともに、民生部門での地球温暖化対策への理解を深めることを目的とする。						
プロジェクト期間	2002年3月1日～2013年3月31日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	99	99	99	99	99	495
ポジティブリスト	No. E. 003						
方法論	JEAM 003 (木質ペレットストーブの使用)						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件 (C)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JEAM003 の適用は実施規則及びポジティブリストNo.E003 に準拠しており、適格性要件を満たしていることを確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オ

	フセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
排出量・吸収量算定（Ⅰ・Ⅱ）	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論 JEAM003 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。なお、現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
モニタリング計画（Ⅲ～Ⅵ）	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 JEAM003 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
その他の論点	現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況（環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施は法令等で要求されていないため除く）を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
認証運営委員会への推奨	<p>オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. E003 の適格性基準を満たし、方法論 JEAM003 に照らした算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、一部独自算定方法の採用をしているが妥当性を立証する資料の提出もあり、ルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。	

9. 申請案件 高知県仁淀川町池川木材工業有限会社における間伐材由来木質バイオマス残渣の熱利用事業

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	高知県仁淀川町池川木材工業有限会社における間伐材由来木質バイオマス残渣の熱利用事業						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	GWC合同会社						
プロジェクト事業者	池川木材工業有限会社						
その他プロジェクト参加者	なし						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	GWC合同会社						
プロジェクト概要	<p>本プロジェクトの目的は、製造工程における木材乾燥に用いる乾燥機を、A重油燃料のものから、木質バイオマス（樹皮）燃料のものへと転換することにより、CO2削減を実施することである。池川木材工業有限会社石神第三工場では、製材工程での木材乾燥において、A重油焚き乾燥機を使用していた。本プロジェクトでは、新たに石神第三工場近隣の見ノ越第二工場において木質バイオマスボイラーを導入し、A重油焚き乾燥機の代替とした（つまり、乾燥工程を石神第三工場から見ノ越第二工場に移したのである）。新たに導入した木質バイオマスボイラーでは、石神第三工場における製材工程で発生し、従来は焼却および廃棄処分されていた樹皮（バーク）を燃料として有効活用している。</p>						
プロジェクト期間	2006年8月1日～2014年7月1日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	522	522	522	522	522	2,610
ポジティブリスト	No. E. 001						
方法論	JEAM 001（化石燃料から未利用の木質バイオマスへのボイラー燃料代替）						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件 (C)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行

	<p>った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JEAM001 の適用は実施規則及びポジティブリストNo.E001 に概ね準拠しており、適格性要件を満たしていることを確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
排出量・吸収量算定（Ⅰ・Ⅱ）	<p>モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論 JEAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに概ね準拠していることを確認した。</p>
モニタリング計画（Ⅲ～Ⅵ）	<p>モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 JEAM001 及びモニタリング方法ガイドラインに概ね準拠していることを確認した。</p>
その他の論点	<p>現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況、環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施状況を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
認証運営委員会への推奨	<p>オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. E001 の適格性基準を概ね満たし、方法論 JEAM001 に一定程度沿った算定式が設定されており、適格性基準に概ね整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、概ね方法論に則って作成されており、一定程度のルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
	意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。

10. 申請案件 梶原町木質バイオマス地域資源循環事業

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	梶原町木質バイオマス地域資源循環事業						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	梶原町						
プロジェクト事業者	梶原中学校 オリエントホテル高知株式会社 社会福祉法人カルスト会 四国部品梶原製造所 四国部品中芸工場						
その他プロジェクト参加者	ゆすはらペレット株式会社 梶原町森林組合						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	梶原町						
プロジェクト概要	本事業では、林内に放置されている未利用林地残材等をペレット化し、冷暖房機器や給湯用ボイラーの燃料として使用されている灯油や重油の代替として利用することによりCO2排出削減を図ることを目的としているが、未利用林地残材の利用によって削減されたCO2排出量についてオフセット・クレジット (J-VER) として認証を受け、当該クレジットを売却することで、ペレット工場における原料 (未利用林地残材) 購入コストの一部をまかなうことにより、森林所有者への資金の還元を実現し、森林整備意欲の増進と間伐実施につなげることで、森林の再生を図る目的も持ち合わせている。						
プロジェクト期間	2008年6月1日～2023年5月31日						
クレジット期間	2008年6月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	60	254	354	354	354	1,376
ポジティブリスト	No. E. 002						
方法論	JEAM 002 (化石燃料から木質ペレットへのボイラー燃料代替)						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件 (C)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JAM002 の適用は実施規則及び

	<p>ポジティブリスト 002 に準拠しており、適格性要件を満たしていることを確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
排出量・吸収量算定（Ⅰ・Ⅱ）	<p>モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論 E002 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。</p>
モニタリング計画（Ⅲ～Ⅵ）	<p>モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 E002 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。</p>
その他の論点	<p>現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況、環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施状況を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
認証運営委員会への推奨	<p>オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. E002 の適格性基準を満たし、方法論 JEAM002 に照らした算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、ルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
	意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。

11. 申請案件 足寄町森林バイオマスエネルギー活用事業

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	足寄町森林バイオマスエネルギー活用事業						
申請受理日	2009年10月29日						
プロジェクト代表事業者	森林バイオマス吸収量活用推進協議会						
プロジェクト事業者	足寄町						
その他プロジェクト参加者	とかちペレット協同組合						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	森林バイオマス吸収量活用推進協議会						
プロジェクト概要	足寄町役場新庁舎及びあしゅろ子どもセンターの建設にともない、冬期間の暖房燃料を木質ペレットによる大型ボイラーとし、新庁舎に隣接する消防庁舎と合わせて、木質ペレットボイラーを導入し、二酸化炭素削減を図るとともに地球温暖化対策の普及啓発を図る。						
プロジェクト期間	2005年4月1日～2021年3月31日						
クレジット期間	2008年4月1日～2013年3月31日						
想定吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	225.2	225.2	225.2	225.2	225.2	1,156
ポジティブリスト	No. E. 002						
方法論	JEAM 002 (化石燃料から木質ペレットへのボイラー燃料代替)						

(2) 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件 (C)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書における方法論 JAM002 の適用は実施規則及びポジティブリスト 002 に準拠しており、適格性要件を満たしていることを確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。
排出量・吸収量算定 (I・II)	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論 002 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。

モニタリング計画 (Ⅲ～Ⅵ)	<p>モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論 002 及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
その他の論点	<p>現地における実査を踏まえていないものの、申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況、環境影響評価及び環境測定、住民説明会の実施状況を確認した結果、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
認証運営委員会への推奨	<p>オフセット・クレジット (J-VER) 制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリスト No. 002 の適格性基準を満たし、方法論 JAM002 に照らした算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、ルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット (J-VER) 制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット (J-VER) 認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。	